

こんにちは  
魚沼市議会です



令和4年第4回定例会 No.80



「初詣」 清水川辺神社

CONTENTS

臨時会・定例会・補正予算・議案賛否の状況 … 2～3	常任・特別委員会報告 …… 16～17
一般質問 …… 4～11	行政視察報告 …… 18
聞かせて！あなたの声「Voice」 …… 12	市民の声を聞く会（議会報告会） …… 19
中学生議会を開催しました …… 13～15	市民の声・議会TOPICS・あとがき … 20

〈発行責任者 議長 関 矢 孝 夫〉 広報広聴特別委員長 大 桃 俊 彦 副委員長 大 平 恭 児  
委員 横 山 正 樹 浅 井 宏 昭 遠 藤 徳 一 渡 辺 一 美



議長 関矢孝夫

# 新年の挨拶



謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
日頃より、市民の皆様方から、市議会にお寄せいただいておりますご支援・ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

市議会では、2つの常任委員会と広報広聴特別委員会で活動を行ってまいりましたが、昨年1月に市から令和3年度から10年度までに老朽化により改修や解体をしなければならない公共施設及びその事業費見込み額について説明を受け、2月にその重要度から中長期的大型事業特別委員会を設置し検討を行い、その検討結果を提言書としてまとめ、9月に市長に提出いたしました。

要望活動においては、南魚沼市及び湯沢町の議会と合同で、国道17号浦佐バイパス・六日町バイパスの整備促進、JR上越線及び只見線の円滑な運行、地域の医療・介護を守る支援などについて、新潟県選出の国会議員、関係省庁、新潟県関係部局長及び自民党県議団に対して、直接要望書を手渡してまいりました。今後も引き続き、地域の課題解決のため、積極的な要望活動を行ってまいります。

また、12月定例会において、議会改革の一環として、タブレット型端末を使ったペーパーレス会議システムを試行いたしました。今後さらに検証を行い本稼働を目指してまいります。市民の声を聞く会は、4月に市役所本庁舎、11月に北部庁舎で開催しました。本年もより多くの市民の皆さんのご意見がいただけるよう、一層の工夫を凝らして開催してまいります。中学生議会につきましても、市内中学校を一巡したことから、昨年市内すべての中学校から代表2名を選抜する方式とし、その様子を社会科の時間で学習していただくように変更いたしました。このことにより市内5校の中学3年生がすべて模擬議会を学習できるようになりました。

今後も市民の皆様への負託に応えるべく、政策提案を含んだ要望活動や議会改革を積極的に進めることにより、「市民に開かれ、信頼される議会」を目指し、不断の努力を重ねてまいります。どうか本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げまして新年の挨拶といたします。

## 第2回臨時会・第4回定例会報告

令和4年第2回臨時会が11月4日に開催され、市長提出の一般会計補正予算（第5号）を可決しました。  
令和4年第4回定例会が12月2日から12月22日の21日間の会期で開催されました。議会初日に、一般会計補正予算（第6号）をはじめ6件の補正予算を可決しました。12月6日と7日には、15人の議員が一般質問を行いました。最終日には、追加で提案された一般会計補正予算（第7号）、各委員会付託の議案等、議員発議の免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について、すべてが可決となりました。  
請願、陳情関係では、1件の請願が採択、3件の陳情が不採択となりました。討論については、詳細は4ページを参照ください。

## 第2回臨時会補正予算

	補正前の額	補正額	計	主 な 内 容
一般会計（第5号）	323億5,520万円	560万円	323億6,080万円	歳入：財政調整基金繰入金の調整 歳出：特定空き家除去費用の追加

## 第4回定例会補正予算

	補正前の額	補正額	計	主 な 内 容	
一般会計（第6号）	323億6,080万円	15億7,450万円	339億3,530万円	歳入：国庫支出金、ふるさと寄附金及びふるさと結基金繰入金の追加、財政調整基金繰入金の調整など 歳出：国の補正予算関連、ふるさと寄附金関係経費、価格高騰に伴う施設等への支援経費など	
一般会計（第7号）	339億3,530万円	2,250万円	339億5,780万円	歳入、歳出とも出産・子育て応援事業費の追加	
国民健康保険特別会計（第1号）	32億1,600万円	1,570万円	32億3,170万円	歳入：未就学児均等割保険料分の繰入金、前年度繰越金、過年度分の保険給付額などが確定したことに伴う精算など 歳出：出産育児一時金の不足に伴う追加、前年度の事業費確	
介護保険特別会計（第2号）	53億9,950万円	200万円	54億150万円	特別養護老人ホームの介護給付費に対応するもの	
ガス事業会計（第1号）	収益的収入	15億8,200万円	6億7,200万円	22億5,400万円	ガス料金、ガス価格激変緩和対策事業補助金
	収益的支出	15億3,400万円	7億1,640万円	22億5,040万円	ガス製造所ガス購入費等、人事異動・給与改定による給与費の調整
	資本的支出	1億5,600万円	30万円	1億5,630万円	人事異動・給与改定による給与費の調整
水道事業会計（第1号）	収益的支出	8億6,200万円	910万円	8億7,110万円	浄水・配水施設動力費、人事異動・給与改定による給与費の調整
	資本的支出	7億300万円	60万円	7億360万円	人事異動・給与改定による給与費の調整
下水道事業会計（第1号）	収益的支出	22億8,900万円	1,820万円	23億720万円	マンホールポンプ・ポンプ場・処理場動力費、人事異動・給与改定による給与費の調整
	資本的支出	17億2,000万円	△280万円	17億1,720万円	人事異動・給与改定による給与費の調整





# 賛成・反対討論

## 陳情第2号

「家族農業を守り、食料自給率の向上を目指す食料・農業政策への転換を求める意見書の提出について」

### 賛成討論

魚沼コシヒカリのブランド力はあるが、一方、その魚沼の地で年間100農業事業者が離農している。この状況は全国の中山間地農業においても似た状況と考える。農業者戸別所得補償制度は、農業経営に苦しんでいる家族農業者への大きな支援になるものであり、この制度の復活を求める陳述書に賛成する。

### 反対討論

今日の日本の農業が抱える課題解決のために大事な視点である。しかしながら陳情内容は、魚沼産コシヒカリ農業施策に有益でない提案が含まれている点や、すでに市が取り組んでいる内容が多く、魚沼市が国に要望することは不適切であり反対する。

## 陳情第3号

「マスク着用・非着用による差別や誹謗中傷をなくす取組に関する陳情」

### 賛成討論

陳情が出される背景には、まだまだマスクの着用・非着用の考え方が周知されていない状況があると考える。この陳情を受け止め、まずは市内の小中学校への調査を行う中で状況を把握し、

それを踏まえてホームページでの周知や、回覧・ポスター等を通じて、市民への啓発を行っていくべきと考え賛成する。

### 反対討論

魚沼市では、既に人権に配慮した冷静な行動が大切だとして、市民に広報している。イベント、集会等でマスク着用を求めているが任意で着用しない人もいる。この陳情を認めることになれば、かえって世論は二分し、人権問題に発展しかねないため反対する。

## 陳情第4号

「子どもの黙食緩和を求める陳情」

### 賛成討論

学校給食は教育にとって非常に重要な柱だと考える。この陳情は、市民から黙食を強要していることの懸念から出されたもので、教育委員会としては、強要はしていないというが、そのような懸念が出されたことは重要である。今後、学校ごとの受け止めや対応が違っても考えられ、この懸念を伝え給食時の対応については適切に行うように求めるため賛成する。

### 反対討論

学校の指導としては一律に必ず黙食を求めているわけではなく、学校現場の実態に応じて適切に指示を出しているということである。このことから、場面場面にに応じて適切に子どもたちに指示を出していると認識でき、あえて、子どもの黙食緩和を求めるまでもないと考え反対する。

# 一般質問 (通告順)



浅井 宏昭

## 「高校生と市長との語るん会in小出高校」を開催して感じたことは

9月16日に新潟県立小出高校にて「市長との語るん会」が開かれた。

**問** 高校生と語るん会を開いて市長が感じたことは。

**答** 若い世代からの意見を直接聴く機会となり、非常に有意義であった。

**問** 「将来、魚沼地域に帰ってきたいと思うか」という問いに13人中7人ほどが帰ってきたいと挙手した。この人数をどう捉えたか。

**答** 直観的に多いと捉えている。

**問** 市長から「魚沼に帰ってくるには何が必要か。帰ってきやすくするためにはどうすればいいか」の問いで「市民割制度を授けてはどうか」という答えがあったが、市長はどう考えるか。

**答** 市への移住定住施策の一貫として位置付けられるかどうか、ほかの制度とのバランスなども含め検討していく。

**問** 今回の高校生からの提案の中で予算付けにつながる意見はあったか。

**答** 現時点では、様々な意見を表現可能かどうか庁内で検討している。今後も若い世代の率直な意見を継続的に聴く場を設けていきたい。

移動投票所の開設について

**問** 今後の移動投票所の考え方について問う。

**答** 移動投票所の必要性をどう考えるか。

**問** タクシーによる移動支援が投票環境の向上と公平性の観点から有効と考えるため、現段階での移動投票所の導入は考えていない。

**問** 移動投票所の開設は全国規模で広まっている。市の面積も広く、高齢者の多い魚沼市だからこそ必要な取組ではないか。

**答** 課題となる時間的制約、人員の確保及び天候等を総合的に勘案し、引き続きタクシーによる移動支援を実施し、充実を図っていく。

**問** 全国各地で移動投票所が開設されているが、魚沼市が新型コロナウイルス感染症対策による移動投票所の開設を断念した主な理由は何か。

**答** 目に見えないウイルスの脅威を可能な限り排除し、投票管理者等が狭い車両に長時間一緒にいるといった密による感染リスクを回避したことによる。





佐藤 肇

# 魚沼市の脱炭素の取組を問う



政府は、2050年度までに温室効果ガスであるCO2排出量を実質ゼロとする削減目標を公表し、地方自治体や産業界、広く国民に対して求めている。

**問** 市の削減目標は、国や県が示す数値と同様と捉えてよいのか。

**答** 市の区域全体の削減目標を定めた魚沼市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)は、策定から10年が経過し、国や県の実行計画に掲げる目標値とのズレが生じているため、今後、国が示す2050年度までの温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し計画改定を行う。

**問** 魚沼市も他市に倣い「ゼロカーボンシティ」を宣言する考えはないか。

**答** 市が脱炭素社会実現という大きな目標を表明し、宣言する姿勢を見せることは大切である。今後、実行計画の改定作業を進める中で、ゼロカーボンシティへの宣言についても検討していく。

**問** CO2排出削減を加速するため、市長が本部長となり、市の全部署を統括する脱炭素推進本部(仮称)のような組織を立ち上げてはどうか。

**答** 現時点で、立ち上げる予定はないが、実行計画の改定に際し、庁内体制についても検討していく。

制についても検討していく。

**問** 脱炭素は市民一人一人の協力が不可欠である。市民への周知と共に市が率先して手本を示すべきと考えるがどうか。

**答** 市では一事業所として、市役所の二酸化炭素削減目標を定めた「第3次魚沼市環境配慮実践プラン」に基づき、節電やクールビズ等の職員一人一人の主體的な活動により庁内のエネルギー使用量の削減に務めている。

**問** 現在、設計が進められている「生涯学習センター」はZEB(ゼブ)仕様となっているのか。CO2削減率は何%程度見込んでいるのか。

**答** ZEB Ready(ゼブレディ)を設計の考え方としている。ZEB Readyは、50%程度省エネ目標としていて、それを目指して設計している。

※1 ZEB 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

※2 ZEB Ready ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物のこと。



本田 篤

# 内田市政2年間を振り返って



**問** 任期も半分が過ぎたが、改めて所感や反省、今後の抱負を伺う。

**答** この2年間は、時間がかかっているものもあるが概ねできている、または、取りかかれていると感じている。なかでも、少子高齢化や人手不足の解消は、全国的な課題となっており、医療、福祉、農業及び商工業等の分野において、従事者への支援や後継者育成を重点的に実施してきたところである。また、懸案

となっていた特別養護老人ホームの50床増床については、令和5年度末までに確保できる見込みとなった。これからもできるだけ多くの市民の声を聞き、引き続き語らん会や移動市長室を続けていく。本市には、まだまだ課題が山積みしているが、議会と力を合わせて人々の笑顔がふれ、活気あるまちづくりを目指していく。

スターリンクを活用したまちづくりを安価で身近で簡単に使えるスター

リンクは、大規模災害にも強く、山間地でも通信ができ、自治体としても活用度は大きい。当市においても新たな情報インフラの整備への必要性があり、防災無線、ケーブルテレビ、市民サービスなど、可能性が限りなく大きいと感じている。

**問** 今後、公共施設の通信関連を全面的に改めスターリンクを活用したまちづくりを考えてみないか。

**答** 人工衛星通信を活用したまちづくりは、今後ますますデジタル社会が進む中では有効な手段の一つと認識している。しかし、大容量高速通信に対応するには、光ケーブルを中心とした情報通信基盤のほうが、より安定した情報通信を提供できるものと考えられる。現時点では人工衛星による通信手段は、あくまでもそれを補完するものと考えられる。また、スターリンクは、現状では個人向けのサービスに限られるため、法人や自治体における活用については、引き続き情報収集を行っていく。





大桃 俊彦

# マイナンバーカードの健康保険証利用について問う



従来の健康保険証は、2024年10月に廃止され、マイナンバー健康保険証(マイナ保険証)となる。しかし、医療機関等からの批判も上がっている。そこで、以下の点について問う。

**問** マイナ保険証を利用する際の手順について。

**答** マイナンバーカード(マイナカード)を持っていても、今後、申請される方も利用登録が必要である。

**問** マイナカードを盗難・紛失時のリスクをどう考えているか。

**答** プライバシー性の個人情報情報は、カードに入っておらず個人情報の悪用はできない。暗証番号が知れた場合は危険性があるので、マイナンバー総合フリーダイヤルへ利用停止の連絡をお願いしたい。

**問** マイナカードは、本人が直接窓口で受け取りに行かなければならないが、高齢者や障害者、施設入居者で寝たきりの人などの対応はどう考えるか。

**答** 総務省が定めた事務処理要領により本人確認が求められ、申請者本人が来庁しての受け取りを原則としている。やむを得ない理由に限り代理人の交付が認められている。

**問** 金融機関等では、本人受け取りを親展で郵送しているが検討はできないか。

**答** 全国的にマイナカードの普及に際してのハードルになるので、申請手続きを見直してもらいたいとの要望があり、国は検討をしているが、当面の間は、現在の取扱いで実施して欲しいとしている。

**問** 将来は、マイナカードで全てを管理していく。紛失等で再発行に1カ月程度かかることだが、その間の身分を保証するにはどうしたらいいのか。

**答** 全国一律のことなので、国のほうで再発行までの期間を短縮するなど検討をしている。

**問** 民生・児童委員の高齢化、なり手不足について問う

**答** 民生委員のサポート役の必要性が求められている現状で、魚沼市でも検討が必要であると考え。高齢化やなり手不足に対する考え方と対応はどうか。

**答** 地域と福祉行政をつなぐ大事なパイプライン役の民生委員を確保できるように、市長会等を通じて処遇改善等を要望していく。



横山 正樹

# 只見線を核にした地域の活性化について問う



10月1日、只見線全線運転再開となり、満員列車の状況が続いている中、JR東日本は、臨時列車の期間を延長しての対応があった。市内への経済効果は大きいものがあると考え。市長は「只見線全線運転再開を一過性にするのではなく、観光資源としてこれまで以上に活用を推進し、官民協働で沿線地域を活性化する」と明言している。

**問** 官民協働をどのような仕組みで行うのか。利活用推進の具体策は何か。

**答** この優れた観光資源をビジネスに活用して、経済活動へと発展していくようなアイデアを民間から積極的に提案いただくことを期待している。そこからつながる取組に対して、行政が後方支援を行うことも、官民協働として一つの仕組み・形態ではないかと考える。具体策については、魚沼ならではのおもてなしや特色ある取組を事業者から行っていただき、それを市が情報発信しながら民間事業者の取組を後押ししていくことが重要だと考える。

**問** 只見線を核にした魚沼市や沿線地域の活性化事業をどのように進めるのか。

**答** 市内で下車したくなる魅力づくりや発信が重要である。地域での飲食や宿泊、体験などを通じた経済効果のみならず、地域とのふれあいも重要な要素であると考え。全線運転再開を

好機として捉え、市観光協会や関係団体をはじめ、福島県とも連携しながら官民協働による周遊観光の推進を図ることで、只見線と本市観光の付加価値を高め、滞在時間や域内消費を伸ばすことで沿線地域の活性化に取り組んでいく。

**問** 小出地区まちなかの賑わい創出について問う

**答** 商店街の賑わいの創出は、第二次総合計画後期基本計画において主要な施策の一つに位置付けられ、施策達成には多角的に取り組んでいくとある。

**問** 市民が期待している「商店街の賑わい」をどのように創出していくのか。

**答** 新たに整備される施設と地元商店街を市民等が回遊する仕掛けが必要と考える。国県や市の支援制度の活用を促しながら若い人たちが足を向けたくなるような商店街づくりに向けて事業者自らが積極的にアイデアを出し、工夫を凝らした取組へとつなげていくように働きかけていく。

**問** 商店街の賑わいづくりに「地域おこし協力隊の導入」ができないのか。

**答** 今後、自治会、コミュニティ協議会に対し地域おこし協力隊の意義や派遣要請等の取りまとめを行いたい。



佐藤 敏雄

### 糖尿病の周知と医療費の削減について問う



市が実施している健康診断の受診率向上策や、市民の健康増進を進める施策について提案と市長の見解を問う。

**問** 魚沼市の健康診断の現状はどうか。未受診者対策はどうか。

**答** 平成28年度から令和元年度までの国保特定健診での受診率は52.53%程度であったが、コロナの関係で昨年度は44.4%となっており、未受診者には個別に案内を図っている。

**問** 検診結果において医師の受診を勧められても、病院に行かない人もいる。特に、自覚症状がない高血圧や糖尿病にその傾向がみられる。医師による再検査や治療が開始されなければなんにもならない。このような人に対する市の勧奨・指導はどのようなになっているのか。

**答** 診断結果で重症化の恐れのある人には個別に保健師等から受診の案内をして3カ月経過しても受診されない人については、再度の訪問をし、受診を促している。

**問** 疾病を発症させないためにも、生活指導や適度な運動を継続することの重要性が言われている。運動させるなど、保健体育指導を実施できないか。

**答** 市は1次予防に重点を置き、「うおぬま元気ポイント」など活用して運動習慣の促進を図っている。

**問** 先日、新潟日報で長岡市の糖尿病対策の記事が掲載されていた。糖尿病を正しく理解し重症化を防止するための動画を作成し、市のホームページやYouTubeで公開している。当市でもこうした周知活動の徹底を求める。

**答** 予防活動が大切であり、市民の関心を図り正しい知識をもつていただくための第一段として、「この健康」に関する動画を、さらに第二弾として「生活習慣病予防のDVD」を作成し、YouTube等で、市内事業所など通して周知を図っていく。



遠藤 徳一

### 「防災指針」の検討と公共施設の関連について問う



**問** 市長から、今後の公共施設の在り方に関する提言書の回答で、魚沼市立地適正化計画では、居住誘導を進めるとしたが、誘導地域には、水害ハザードマップに含まれる区域もある。今後、検討される「防災指針」と避難先としての公共施設のストックをどう関連づけるか。

**答** 「防災指針」については、現在、水害等に対するリスク分析、課題の整理を行っている。その後、検討結果に基づき公共施設の再編を踏まえた中で災害リスクを回避する具体的な取組を進めていく。

**問** 自然・原子力災害における避難先として、公共施設のストックの関連性は重要だ。ポストコロナ時代を迎え、避難先でのリスク分散や軽減も検討すべきだ。公共ストックの数や位置の検討はされているか。

**答** 今後、公共施設の再編やハザードマップの見直しとあわせて、地域の現状に応じた避難の考え方を整理し、民間事業者の保有する施設等の活用に向けた検討をする必要がある。

**問** 公共施設の在り方検討となると、再利用の観点が多い。グランドデザインを明確化し、地域再生実現のためのツールとすべきと考える。多様な利害

関係者のつくテーブルを設けないか。

**答** 小出地域まちなか再生事業ワークショップの開催は、市民の声を反映し、地域活性化につなげるための取組であったと実感している。今後、トータルデザインを見出し、施設マネジメントにどう生かすかは、引き続きの検討課題としたい。

市内全体を一つのホテルという捉え方について

**問** 市内全体を一つのホテル(リゾート)に見立て、市民参加の観光が目指せないか。観光やまち歩きは市内スポットへ、食事は市内レストランや居酒屋へ、廊下やエレベーターは、市内公共交通を利用する。くつろぎ空間や映画館は、文化会館やお寺を活用する。温泉は、市内各所で楽しむ。お土産は市内事業者や芸術家による工芸品とする。一つの事業者が個人採算のためでなく、役割を持った包括連携で観光に取り組むべきと考える。6次産業の開発や人材の輩出につながると思うかどうか。

**答** チーム魚沼として、一つのホテルとなるためには、各主体が観光のメインプレーヤーであるという意識の醸成を行い、個々の役割を踏まえ横断的に連携していくことが総合力と実行力を兼ね備えた体制づくりにつながると思う。





高野 甲子雄

### 保育所保育の充実を図れ



魚沼市も共働き、核家族化が進み、保育所保育の充実が求められている。特にゼロ歳児から2歳児保育の希望が増えている。反面、保育士の確保が難しい状況であるとも聞いている。

**問** 非常時避難を考えると、未満児2人に対し、保育士1人にすべきと考えるがどうか。

**答** 国の最低基準を遵守し未満児は、0歳児3人に対して職員1人以上、1、2歳児は6人に対して1人以上の職員を配置し、日頃から保育の状況等に応じ加配の職員を配置するなど必要な対応を図っている。

**問** 保育士の確保のポイントは何金面での処遇改善と考えるがどうか。

**答** 賃金面での待遇改善に加え、会計年度任用職員が多いことから安定した雇用環境が求められていると認識している。課題改善に向けた検討が必要と考える。

**問** 市立保育園の会計年度任用職員の割合はどうか。正職員化を進めるときと考えるがどうか。

**答** 会計年度任用職員の割合は、全体の67%を占めている。少子

化の進展を見据えた中で、幼児期の教育・保育の量の見込みと必要な提供体制の確保に向けた適正な人員配置の検討を引き続き進める。また、将来的に持続可能な保育環境を整えるため、民間活力の導入を進めていく。

**問** 保育園、学校給食でのオーガニック食材の利用を問う

農水省は「みどりの食料システム戦略」を踏まえた有機農産物の利用拡大、耕作面積の拡大を図るとしている。

**問** オーガニック食材を保育園・学校給食で利用してはどうか。

**答** オーガニック食材は、通常販売されている食材よりも価格が高い傾向にあることや、給食提供に必要な品目や量を十分に確保できるか等の課題がある。こういった課題を一つ一つ吟味していく必要があると考える。

**問** 学校給食のセンター化を見直し、自校方式に戻す考えはないか。

**答** 給食センターの受配校には大量調理ができるような設備がなく、調理場施設設備の整備や調理員、栄養職員等の人材確保等、多大なコストがかかり現実的でないと考えている。



桑原 郁夫

### 少子化対策について問う



**問** 市長は、魚沼市がもつと子育てに特化した行政を行い、子どもを産み育てやすい環境を実現するためどのような施策を実施しているか。

**答** 子育て世代が孤立しないよう、そして、子どもに寄り添い全ての保護者が子どもの成長に喜びを感じられるように、子どもの健やかな成長を見守り育む仕組みづくりの環境を整える。魚沼市独自の施策としては、18歳以下の子ども医療費無償、保育園利用料を第二子から無償、保育園の給食費の副食費の免除等がある。また、出産祝い金としてすこ

やか子育て応援給付金がある。令和2年度に設置した子育て世代包括支援センターを中心に、関係部署や関係機関との連携を密にして、子育てをする親御さんに寄り添いながら妊娠前から出産、乳幼児期、そして、子育て期にわたるまで切れ目のない支援と相談体制の充実を進めていく。

**問** 国もようやく少子化対策を主要な柱に据え検討しているが、魚沼市は、現在、出産祝い金は、一人10万円であるが、第2子からは20万円、

第3子からは30万円のように増額を検討しないか。

**答** 本市では、今年の4月から、すこやか子育て応援給付金を開始した。創設してから7カ月と間もないことから国や県、周辺自治体の動向を注視しながら必要な子育て支援を研究・調査していく。

**問** 里親制度について、国や県は、補助金があるが魚沼市はないようである。そこで、里親に対する市からの手当等の創設と里親を啓発する考えはないか。

**答** 養育里親制度は、児童福祉法に基づき、措置費として一人当たり月額9万円の手当と5万円程度の生活費の支給が定められている。里親に対する県内市町村の手当について、独自に行っているか県に確認したところ、把握していないとのことであり、魚沼市として現段階で実施する見込みはない。ただし、里親の啓発は引き続き行っていく。





富永三千敏

# IC名称変更にもな う地域と経済の活性化 の取組について問う

インターチェンジ



**問** 名称変更による経済効果により大きなものにするために具体的な取組を考えているか。

**答** 関係機関、地元経済団体等の意見を聞きながらオール魚沼で取り組み、事業者からは誘客の契機として生かすことを望む。懸垂幕、ポスターなどでPRするほか、令和6年の市政20周年に絡めた事業ができるものと期待する。具体的な取組は、観光協会や事業者と考えていく。

**問** インターチェンジ周辺に観光、文化、産業などを紹介する施設を整備し、来訪のきっかけをつくらないか。

**答** 名称変更による効果をインターチェンジ周辺に限定せず、市内全域の総合的な発展を期待するため、現時点では、検討していない。

ごみ処理場の建設用地選定について

2市1町の範囲内でのごみ処理場建設計画を白紙とし、魚沼市単独で整備することとした。近年のごみ処理施設は進化し、市街地内での建設が可能となっている。

**問** 当市単独で整備する新ごみ処理施設の用地選定の基本的な考えはどうか。

**答** 面積、立地規制、運搬効率、造成費や住民の理解など多方面から検討し、総合的な判断を進める。

**問** エコや蒸気発電、熱エネルギー利用などにより環境教育、温水利用スポーツ施設等で活用できる複合施設にしないか。畜産施設近くに建設し、燃焼法による悪臭除去を考慮しないか。

**答** 廃熱利用は検討し、燃焼法による悪臭除去は検討課題としたい。



渡辺 一美

# 犯罪被害者等支援条例 の制定について問う



**問** 魚沼市には、犯罪被害者に特化した条例がないため、犯罪被害者等を支える地域社会の実現に向けた取組が十分とはいえない。被害者支援に有効な行政サービスを活用する仕組みづくりが必要だが、犯罪被害者等支援条例の制定について市長の見解を問う。

**答** 県や警察本部、法テラス等からも特化条例の制定を求められており、条例制定の重要性は、十分認識している。現在、先進地の条例等を参考に制定に向けた準備を進めている。

9価HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンについて

子宮頸がんを予防するHPVワクチンは、日本では、現在、2価と4価ワクチンの2種類が定期接種の対象となっている。海外では、より多くのHPV遺伝子型を標的とすることができ、予防効果の高い9価ワクチンが主流である。そこで今後の対応について問う。

**問** 厚労省は、2価・4価ワクチンを既に1回または、2回接種した

人が残りの接種を9価ワクチンで完了する交互接種についても可能とした。9価HPVワクチンの定期接種化にともなう当市の対応及び対象となる方への周知方法についてどう考えるか。

**答** 対象者に、正しく分かりやすい情報提供を行っていく。また、既に接種を開始している方へは、2価または4価ワクチンとの交互接種が可能であることを市報のほか、個別にリーフレット等を送付し周知していく。

**問** 先進諸外国では、定期接種対象年齢の男女に対して主に9価ワクチンで2回の接種が推奨されている。魚沼市は全国に先駆けてHPVワクチン接種を無償化した先進地であることを提案するがどうか。

**答** 男性の接種により、HPVの感染で引き起こる様々ながんや性感染症の予防だけでなく、大切なパートナーを守ることもつながるため、今後、国の動向をみながら医師会等の意見を踏まえ検討していく。



星 直樹

# 部活動の地域移行について問う



**問** 総合型地域スポーツクラブ、エンジョイスポーツクラブとの連携はどの程度考えているのか。

**答** 11月6日にエンジョイスポーツクラブ魚沼が主幹となり県スポーツ協会主催の部活動地域移行に係る「地域ミーティング」を開催した。また、所属のアドバイザーからは、部活動検討委員として、今後の部活動の在り方について助言をいただいている。引き続き地域移行との関わりについて協力・協議を進め、生徒の多様なニーズに応じた活動機会の拡大、整備に連携していく。

**問** 「部活動地域移行」こそ民間主導行政参加ではないか。

**答** 地域移行については、各地域の実態が非常に異なると考える。本市の場合は、市民が行ってきたスポ

ーツを基盤としスポーツ少年団で多くのスポーツを指導してきた実績がある。文化活動等も非常に盛んで、市民の皆さんが社会教育や生涯学習として活動されている団体が多くある。そのような団体等との話合いの中で地域移行を進めていく。

**問** 今回の地域移行が子どもたちの選択肢を狭めることにならないか。

**答** 地域移行が進むことで、生徒が学校の部活動以外の活動を選択することができる環境の整備が進み、結果的に選択肢は、広がると捉えている。



星野みゆき

# ごみの減量化について問う



**問** 指定ごみ袋を地域の事業者と協力し、レジ袋として活用している自治体がある。魚沼市も指定ごみ袋をレジ袋として活用することを提案するが見解を問う。

**答** 今年度から持ち手の部分をレジ袋と同様の形状に変更したこともあり、1号袋がレジ袋として活用できるものと考えられる。事業者が指定ごみ袋をレジ袋として使うことも想定されるが、マイバックを推奨していることから、市内事業者にこの件を協力依頼することは考えていない。

**問** 指定ごみ袋に広告を載せることにより、PR効果が期待されることから、民間企業の広告をゴミ袋に掲載しているところもある。企業の広告掲載をすることで、自主財源も得られるが考えてみてはどうか。

**答** 指定ごみ袋をレジ袋にしたり、広告を掲載したり、アイデアとしては面白い。今後検討する余地はある。

**問** マイバックを忘れた場合、どうせ買わなくてはいけないのなら、レジ袋ではなく、少し高くても指定ごみ袋を購入したいという声もあるが、どうか。

**答** 声があるのであれば、検討させていただきます。

**問** 分別されていない等の理由で収集されないごみが各集積所で増加している。分別周知の強化が必要と考えるがどうか。

**答** 引受先の取引条件が厳しくなったことから、分別区分の徹底を図ったことにより、一時的に収集できないごみが増えたが、現在は減少傾向にある。周知については、「ごみの分け方出し方ガイドブック」を全戸配布し、ホームページによる周知、スマートフォン用「ゴミ分別アプリ「エコうお」を導入して普及を図っている。





佐藤 達雄

## 物価高騰対策を問う



物価高騰により市民の暮らしと経営が深刻な状況となっている。次の点について問う。

**問** 政府の「価格高騰重点支援交付金」の額及び支援内容はどうか。

**答** 1億4,298万円であり、医療・福祉・保育等施設の光熱水費、中小事業者の省エネ設備への更新補助等があり、支援は申請方式である。

**問** 市民は新型コロナウイルスによる打撃に加え、物価高騰により深刻な状況になっている。市独自の支援として、ふるさと結基金を活用してはどうか。

**答** 交付金補助対象以外の取組みに対する、ふるさと結基金の充当についても、内容を精査し判断したい。

介護人材確保支援事業について

**問** この事業が目的とした即戦力・勤務希望の少ない夜勤などの人材確保や資格取得につながっているか。介護現場の看護師不足が問題と

なっているが、どう確保するか。

**答** 市内各法人の処遇改善による人材確保や、離職防止につながっているものと分析をしている。今回の支援補助は介護施設等の看護師にも適用になる制度であり、これを活用しPRしながら確保に努めたい。

気候危機対策を問う

国内はもとより世界各地で、大洪水や大干ばつの発生確率が非常に高まっており、次の点について問う。

**問** 気候危機対策のため2030年までに、CO2削減に取り組むべき緊急性をどう認識しているか。市の組織を温暖化対策にしっかり取り組む組織編成にしてはどうか。

**答** CO2削減の取り組みは待たなしの状況と認識している。来年度地球温暖化対策実行計画見直しの際に、庁内体制についても検討していきたい。



大平 恭児

## 感染症対策について問う



**問** インフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行するなどの懸念が示されている。職場や教育、福祉施設から家庭内へと広がれば大きな影響をとまなう。現状の認識について問う。

**答** 市内でも新型コロナウイルス感染者数が増えており、小中学校では、学級閉鎖等を実施しているため、今後の感染拡大に警戒していかなければならない状況であると認識している。

学校給食費助成について

**問** 国は学校給食費の公費助成を認めている。子育て支援として学校給食費の助成に踏み出すべきではないか。

**答** 本年度は、保護者負担を増やすことなく安定した学校給食を提供するため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、本年10月から令和5年3月末までの学校給食単価値上げ相当分を補助している。しかし、恒久的な市単独での公費助成については、さらに

慎重な検討が必要と考える。

補聴器助成について

介護事業でも認知症は大きな問題だ。聴こえの問題を改善することにより認知症の予防になると専門家も指摘しているところである。

**問** 今年度から実施している、高齢者向けの補聴器助成について実施状況はどうか。

**答** 本年11月末時点で、助成決定件数は20件となっている。

**問** 難聴対策について、第9期介護事業計画の中にしっかりと位置付けるべきではないか。また、ニーズ調査の項目に加えたらどうか。

**答** 補聴器の装着により、コミュニケーション能力の維持向上が期待されるので、難聴対策について、第9期介護保険事業計画へ盛り込むことも視野に入れながら策定作業を進めていく。補聴器助成のニーズの調査項目についても、ほかの調査項目と調整を図りつつ検討していく。

# Voice

聞かせて！あなたの声

## ボッチャクラブ魚沼 × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざっくばらんに語り合うコーナーです。

第12回目は、ボッチャクラブ魚沼代表の松田純子さんからお話を伺いました。

### ボッチャを始めたきっかけとクラブ紹介

ボッチャクラブは、6年前に小出特別支援学校の保護者の方、卒業生の保護者の方などがつくった福祉団体です。障害の程度によっては、地域でのスポーツ会場への移動が難しかったり、休日の外出先が限られたりと地域交流、社会参加の機会が少ないことがあります。「子どもたちが休日に友達と一緒にスポーツをする場所をつくりたい」、「障害の重い方の休日の外出先や居場所のひとつになれば」、「ボッチャを通して様々な人と交流しよう」という思いでボッチャクラブがつくられました。メンバーは、30人ほどで、月1回、活動を行っています。今までは、支援学校・学級の子どもたち、保護者の方が中心でしたが、昨年行われた広神公民館主催の「ボッチャ教室」に参加された地域の方々もメンバーに加わり、現在は、以前より交流の幅が広がった中で、楽しく活動をしています。

子どもたちのためにと始めた



定期活動は、毎月第3土曜日に2時間行っています。コートを作った後、準備体操をし、試合形式で練習を行っています。昨年は、第1回魚沼ボッチャ交流大会を行い、ボッチャを通して多くの方々と交流を行いました。依頼があれば、出張ボッチャ教室も行っています。

ボッチャクラブですが、現在は、子どもたちに限らず、メンバー全員にとって居心地の良い場所であったり、交流の場になってくれたらと思います、活動を行っています。

### ボッチャクラブを運営していくうえでの問題点

メンバーの中には、車椅子の方がいるので、市内にバリアフリーの体育館が少なかったり、多目的トイレや更衣室等の休憩スペース等が不十分であったりと、練習会場が限られてしまうことです。また、投球補助具が1台しかなく、投球が難しい方に対し、用具が不足していることがあります。そして、大会運営を行ううえでの資金の問題もあります。

### 活動の様子

皆がやさしく、和やかな雰囲気で行っています。皆、伸び伸びと自由にしている、会話をしたり、楽しく活動をしています。

### 今後の課題について

魚沼にも少しずつボッチャが広まってきています。今後、もっと魚沼でボッチャを広め、その方とどのように交流をしていくか、今の広がりをもどのように維持するのが課題です。多くの方に、ボッチャクラブやボッチャを知ってもらい、地域交流や社会参加の場として継続させていきたいです。

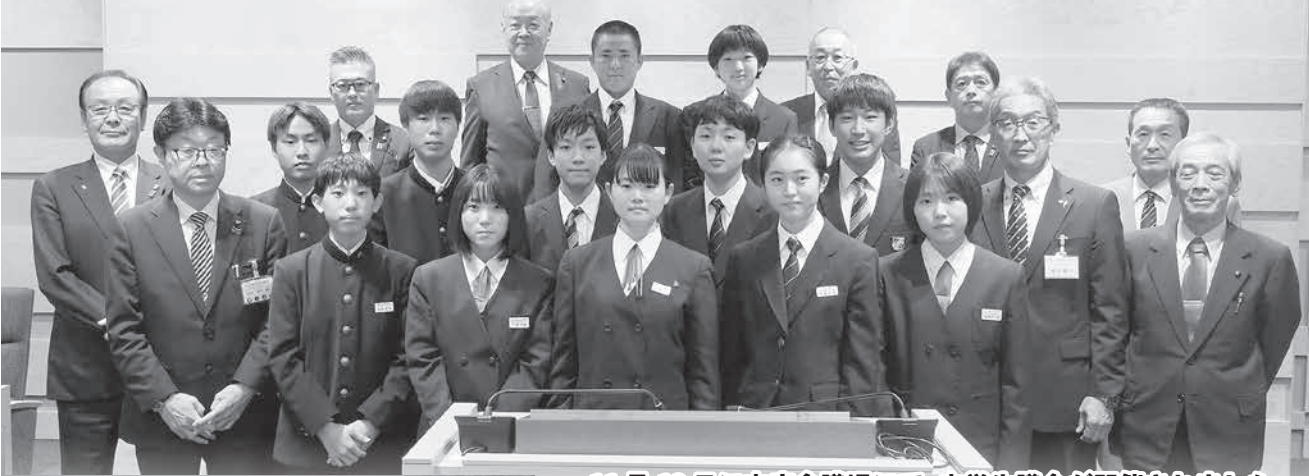


### 市議会から一言

ボッチャの道具や会場等に恵まれた環境とはいえなくても、子どもたちの楽しそうな笑顔とクラブ員全員の一投一投の真剣さに見入ってしまい、環境を整えていく必要があると考えさせられました。



# 令和4年度 中学生議会を開催しました 中学生の視点で市政に提言



市内各中学を訪問しました。7/14に行われた堀之内中学校での事前授業の様子です。

11月18日に本庁舎議場にて、中学生議会が開催されました。今年度から、市内各中学校3年生の代表12人が議員となり、9人が一般質問に登壇しました。

中学生議会は、中学生が地方自治について学習する中で、市政や市議会をより身近に感じてもらい、政治への関心を高めることを目的に開催しており、今年で6回目となります。

生徒の皆さんは、7月、事前授業を通じて夏休みから準備を始め、議会に臨みました。当日は、中学生ならではの視点で、魚沼市をより良くするための提言を市長や教育長に対して堂々と述べました。この体験が、郷土愛の醸成につながることを期待します。

## 鉄道・道路について



魚沼北中学校  
穴沢 泰志 議員

### 問

只見線は、雪が降ると直ぐに止まってしまふ。そもそもの本数が少ない。また、道路がガタガタしていて、車や体に影響が出ると考える。国道、県道、市道があり、直せるところも限られているとは思いますが、ぜひ直していただきたい。

### 答

近年は、1日あたりの降雪量が非常に多く、利用者の安全確保等のため計画的な運休をする場合は、ご理解をお願いする。運転本数は、今以上の乗客数の確保が見込めなければ、運行本数の増加は、非常に高いハードルであると考える。

道路の舗装修繕については、市道管理者として、市民の交通に影響が出ないよう、危険な箇所は、すぐに直すようにしている。ただし、広い面積がひび割れたような場所は、修繕の費用も多くかかることから、交通量や損傷の程度を調査し、優先順位を付けながら順番に修繕を行っている。

## 魚沼市の企業誘致について



広神中学校  
坂西 暁 議員

### 問

魚沼市に企業が誘致され、新たな雇用が生まれ、魚沼市の人口増加につながると考えられる。魚沼市として企業の誘致に向けてどのような取組を行っているか。また、小出本町のシャッター街の様子をどう考えるか。

### 答

若い人たちの就労の志向や企業ニーズに丁寧に対応していくことを意識している。分譲用地が残りの1区画となった水の郷工業団地への食品メーカー誘致に向けた活動をはじめ、地方進出を考える事務系企業、IT企業にも狙いを定め、それらの企業の誘致にも積極的に取り組むこととしている。新たな雇用の場を創出し、魚沼市の人口増加につなげていきたい。

シャッター街については、高校生との語らん会の中で、まちを活性化するにはどうしたらいいかということとを話し合った。皆さんからもいい提案があったら、聞かせて欲しい。

### 魚沼市の観光について



湯之谷中学校  
たけはし  
**竹原 杏音** 議員

#### 問

魚沼市は、豊かな自然に恵まれ、温泉やスキー場、おいしい魚沼コシヒカリなどを生かした観光振興に力を入れたらどうか。そこで、現在どのような観光客が多いのか。そして、今後どのような観光に力を入れていこうとしているのか。魚沼市の観光についての計画を伺う。

#### 答

観光客の割合は、県内が約5割を占め、首都圏からが約3割となっている。月別の宿泊者のピークは、大学等の部活合宿等で、夏休みとなる8月が最も多い。日帰り旅行者のピークは、紅葉時期の10月となっている。来訪目的は、「食・グルメ」に対する期待感が強く見られる傾向にある。全国的に高い認知度を誇る「魚沼産コシヒカリ」を観光資源として位置づけ、魚沼市ならではの食体験を充実させることにより、「行ってみたい魚沼市」を目指し、観光収益に結び付けられるよう取り組んでいく。

### 公共施設の整備について



小出中学校  
はら  
**原寺 湧雅** 議員

#### 問

魚沼市にはいくつかの体育館があってもバスケットボールができる野外コートが一つもなく、夕方にシユート練習やドリブル練習をしているとうるさいと注意されることもあった。これらの経験から野外コートの設置を希望する。野外コートがあることで、バスケットボールが未経験の方でも気軽にでき、よい点もあると考える。

#### 答

野外バスケットボールコートの建設には、建設地域の理解や建設後の維持管理費の問題、また、積雪時の管理等課題も多いため、既存体育館の有効利用と併せて慎重に検討する必要がある。



### 米農家の高齢化と米の需要減少対策について



堀之内中学校  
いからし  
**五十嵐みのり** 議員

#### 問

私の住む地域は、農家の高齢化で長期的生産量に心配がある。また、日本人の多様化した食生活によって、米の需要が減少傾向にあり、この状況を放置すれば、農家の生産意欲が落ち、廃業する農家が増加すると考える。国や県の対策以外にも、市として独自に支援することが必要と感じる。魚沼市の取組について伺う。

#### 答

全国に誇るブランド米の需要が見込まれ、ほかの産地と比べて高い価格で取引されている。一方で、高齢化等による廃業を食い止めるため、新規就農者へ研修費用等の助成や、Uターン者を雇用する農業法人等への車両購入費の支援を行っている。また、農業者の生産意欲向上のため、魚沼市産コシヒカリの魚沼ブランド推奨品への登録や、市の特徴を生かした高付加価値米の取組支援など、ブランドイメージの向上と情報発信の強化に努めている。

### 少子高齢化・過疎化対策について



魚沼北中学校  
わたなべ  
**渡辺 麗鳳** 議員

#### 問

市として具体的にどのような対策をしているか。また、その対策によりどのような結果が出ているのか。近年、様々な地域行事は減り、少子高齢化・過疎化は少しも良くなっていないと感じる。私たちの未来や、私たちの子供世代は、将来が想像できず、心配極まりない。市にとってこれは最重要事項と捉え、即効性のある対策を行なってほしい。

#### 答

具体的な対策としては、主に若い世代の定住促進と、子育て環境の充実を中心に取り組んでいる。人口減少は、全国的にも抑えられていない状況である。即効性のある対策を行うことは、大変難しいことだが、若い皆さんの新しい発想や、地域の皆さんの声を聞く中で、有効なものを考えていきたい。



### リモートを使った市内 中学校の交流について



広神中学校  
高橋 結風 議員  
たかはし ゆいか

**問** GIGAスクールの取組によって、各校のオンライン環境が整備された。それを活用して、市内の中学校の交流ができないか。例えば、魚沼市が力を入れていく英語の授業で交流することで、学力向上と地域活性化につながると思われる。

### 答

**答** オンライン環境を使った学校間交流は、多様な考えに触れる機会となり、居ながらにして各校の取り組みを紹介する等のメリットがある。特に、英語の授業では、他校の生徒と英語で会話をする事で、学習意欲を高め、新たな学びや発見が期待されている。市が推進するグローバル人材育成の一環としても、ぜひ市内での取組を拡大したいと考える。

### 魚沼市の都市計画について



湯之谷中学校  
馬場菜々美 議員  
うまばな ななみ

**問** 私たち中学生は、長岡市のアピタのようなショッピングモールに憧れる。魚沼市は国道17号や、二つのインターチェンジがあり、交通の便に恵まれている。魚沼市の発展のために、豊かな自然と交通の便を生かした市内だけでなく、県内や県外からも来なくなるような商業施設・区域の建設をしたらどうか。魚沼市の今後の都市計画について伺う。

### 答

**答** 市民の皆さんが快適かつ安心して暮らせるため、現在、図書館と集会所の複合施設や、道路、病院などの施設整備を進め、都市機能の向上によるまちのにぎわいの創出に取り組んでいる。暮らしやすい都市機能の整備と、地域資源の活用を推進し、市外からも注目され魅力ある都市の形成を目指し、企業が進出したいくなるようなまちとしての土台づくりを進めていく。

### 魚沼市の若者向け運動 施設の設置について



小出中学校  
高橋 心 議員  
たかはし しん

**問** 市内にスケートボード用の施設は、「ゆくパーク薬師」のみで、小出地域からは少し遠く、市役所の駐車場やまちの中で乗る際に、「スケートボードの音がうるさい」、「危険だ」などと注意されることがあり、小出地域にスケートボード用の施設を希望する。造ることにより運動する機会が増えると思われる。

### 答

**答** スケートボード用の施設建設は、利用者が将来、素晴らしいアスリートになったり、人的交流にもつながると考える。しかし、民家から少し離れた場所での建設が、屋内での施設が必要となり、建設費や維持管理費が多額であることや、公的資金を使用した場合の費用対効果も求められ、将来的な課題として慎重に検討する必要がある。

### 樋口教育長からの講評

今回の質問は、人口減少が大きな問題となっている魚沼市の現状を踏まえ、公共交通や、企業誘致、観光や農業の振興、デジタル化やスポーツ環境など、まさに今魚沼市が総合計画の下、取り組んでいる内容と重なることが多く、自分たちの住む魚沼市について事前によく調べられた内容でした。答に詰まる鋭い質問や、再々質問もいただき、議員としての活躍に嬉しく感じました。

【これからの未来を担う  
大きな役割として2つのお願い】

- ①様々な考えを持つ多様な人と話し合う姿勢を持ち、話し合う力をつけていただきたい。
- ②様々な体験をして広い世の中を知ってほしい。

緊張感が漂う議場で、堂々と議事進行をしていただきました。



広神中学校  
仲丸 陽大 議長  
なかもる はると



本多 柚歩 議長  
ほんだ ゆずほ



堀之内中学校  
石田 來斗 議員  
いしだ らいと

自分たちの意見を前向きに検討していることが分かって良かった。質問に対して、的確な市の意見を言ってもらえて、理解しやすかったです。

# 総務文教委員会報告



10月19日・11月16日・12月13日に委員会を開催した。

## 1 審査事件

### 陳情第4号

「子供の黙食緩和を求める陳情」

**問** 学校側の方針はどうか。

**答** 教育委員会からは、文科省のマニュアルに基づき対策を指示している。もとより黙食を求めているものではないとしている。それぞれの学校の実情に合わせて指導している。

※不採択とすべきものと決定した。

議案第96号〜103号・107〜109号

※原案可決すべきものと決定した。

## 2 調査事件

### ① コミュニティ協議会について

総合計画の実施計画に位置付けて進めているコミュニティ活動支援事業の総括意見をまとめて市長あてに提言書を提出することとした。

### ② 魚沼DX推進方針(案)について

策定の背景と目的、推進方針の位置付けと推進体制、実施する取組などの説明を受けた。

**問** 高齢者の方々に向けた具体的な

策はあるか。

**答** 高齢者からデジタルに触れていただくことも目的である。デジタルデバイス(情報格差)対策の中で、初心者や高齢者向けのスマホ教室を開催する等、情報格差の解消に務める。既に行っている部分もあるが、さらに拡充をしていきたい。

### ③ 「魚沼市ケーブルテレビ」に関する市民アンケートの結果及び今後のスケジュールについて

市民アンケート結果、回答数1,242件、回答率53・7%の速報について説明を受けた。

### ④ 文書保管庫の現状について

文書の保管場所として確保してきた施設がすでに満杯に近い状況となっている。今後、適切に保管するために文書保管庫の在り方について議論していく必要があり、現状の報告を受けた。

### 問 保存状態はどんなか。

**答** 本庁舎の中の物は良い状態であると考える。問題は、車庫の2階等に置いてある文書であり、委員会で現状を見ていただきたい。

### ⑤ 小型動力ポンプ付水槽車購入の進捗状況について

令和4年度更新予定の小型動力ポンプ付水槽車について、車体となる車両を製造するメーカー(日野自動車)の不祥事により、タンク車の装着が遅延している。12月15日に契約先業者、関係者から車両の納期及び、ぎ装、進捗状況の説明があるので、その後改めて委員会に詳細を報告する。

### 問 納期までに納品できない可能性があるが、納品できない場合、市はどのような対応をするのか。

**答** ポンプ付水槽車は、必要性があるので、現時点での契約破棄は考えていない。現在発注している車両を納めてもらうことが、市にとって最も有益であると考ええる。



⑥ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告について

令和3年度分に関する報告を受けた。

### ⑦ 職員倫理研修の実施報告について

不祥事を発生させないために、会計年度任用職員を含む全職員を対象とした倫理研修を実施し、9割以上の904人の参加があったとの報告を受けた。

### ⑧ 国道17号堀之内跨道橋光ケーブル損傷事故の経過報告について

8月から復旧工事をしており、今月中には工事完了見込みである。復旧費用については、原因者から負担してもらう予定であると報告を受けた。

### ⑨ 一般財団法人魚沼市地域づくり振興公社の理事長について

12月9日に行われた理事会で、市長が理事長に就任したと報告を受けた。

### ⑩ 広神地区スクールバス事故等のその後の経過について

小出警察署の捜査が終了したとの報告を受けた。



## 産業厚生委員会報告



10月11日・11月14日・12月14日に委員会を開催した。

### 1 審査事件

#### 請願第4号

「免税軽油制度の継続を求める請願書」  
今後も農業やスキー場経営に必要であり、採択すべきものと決定した。

#### 陳情第2号

「家族農業を守り、食料自給率の向上を目指す食料・農業政策への転換を求める意見書の提出について」  
ブランド米魚沼コシヒカリを中心とする本市の農業政策と相いれないところがあり不採択とした。

#### 陳情第3号

「マスク着用・非着用による差別や誹謗中傷をなくす取組に関する陳情」  
既に市報やホームページで周知済みであり、不採択とした。

#### 議案審査

議案第104号〜106号・110号〜113号

※原案可決すべきものと決定した。

### 2 調査事件

#### ① 葬祭費の支給について

国民健康保険では支給される直葬

に係る葬祭費が、後期高齢者医療保険では支給されていないので、今後機会をとらえ県に要望していくこととした。

② 介護保険料にかかる事務誤りにおけるその後の経過について  
なぜ事務誤りが発生したのか、原因調査並びにその後の対応について報告を受け、質疑をした。対象世帯には市職員が訪問し、謝罪すると共に保険利用料返還など必要な事務が完了したことを確認した。

③ 魚沼市内スキー場について  
●魚沼市スキー場編成協議会（仮）設立総会の状況並びに魚沼市内スキー場に関する関係条例の整備方針について報告を受け、質疑を行った。また、薬師スキー場のリフト更新の地元説明会等の経過について質疑を行った。魚沼市内スキー場の、今後の執行部方針を委員会です承した。

●魚沼市スキー場編成協議会の経過報告を受け、質疑を行った。薬師スキー場リフト更新図面の提出を求めた。  
●薬師スキー場ペアリフト整備の図面が示され、地権者との協議等その後の経過について説明を受け、質疑を行った。

#### ④ エコプラント魚沼について

大規模改修によるエコプラント魚沼の延命方針を転換し、令和13年度を目途に新処理施設を整備する案が示された。新ごみ処理施設整備構想を策定する業務委託を、債務負担行為により早期発注とする方針が示され、委員会です承した。

#### ⑤ 病院事業改革プランについて

地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインの概要について説明を受け、質疑を行った。

#### ⑥ 第3次地域福祉推進計画について

本計画は、令和4年度中に策定し、5年度から適用するもの。市の福祉関係部署と社会福祉協議会、外部アドバイザーにより策定作業を進めている。今後、パブリックコメントを求め、成案にしたいたとの説明を受け、質疑を行った。本委員会からの意見も整理していただき、パブリックコメント前に再度調査することとした。

#### ⑦ 障害者支援に係る基幹相談支援センターの設置について

障害者支援に関する相談が5年間で延べ2,500件に及び、困難事例への対応強化が求められてきた。市内2カ所の相談支援事業所をバツ

クアップするため、基幹相談支援センターを、令和5年度から市役所本庁舎福祉支援課内に設置する方針が示され、質疑を行った。

#### ⑧ その他

国道17号羽根川橋の交通規制について、魚沼市住宅リフォーム支援事業の申請状況について、魚沼市景観審議会の審議内容について報告を受け、質疑を行った。

## 議会運営委員会報告

第4回定例会において、議会改革の一環として、タブレット型端末を使ったペーパーレス会議システムを導入した。

今後、さらに検証を行い、本格稼働を目指していく。



タブレット操作研修会

# 先進地に学ぶ！ 行政視察報告



市の課題や先進地事例を調査するため、常任委員会で行政視察を行いました。視察後は、各委員会において意見集約し、行政への情報提供や提言を通して、市政に反映していきます。

## 総務文教委員会

11月10日 埼玉県川口市

### 「空き家対策の取組について」



川口市は、もしもの時に家族や残された人に自分の思いを伝えるための「家の終活リーフレット」を作成し、無料で配布している。リーフレットは、法的効力はないが、亡くなった後、空き家をどうしたいかなどが記入でき、元気なうちに家族で家のことを話し合うきっかけの一助となればとのことだった。「家の終活リーフレット」は、当市でも大いに活用できるものと思われた。

11月11日 東京都八王子市

### 「不登校児童・生徒のための 公立小中一貫校の取組について」



八王子市立高尾山学園は、「不登校の児童・生徒のための体験型学校特区」として、全国初の構造改革特別区域計画認定を受け、平成16年4月の開校、今年度で19年目を迎えた。通常プラス加配の教員、スクールカウンセラー、スクールサポートスタッフ、有償ボランティア等々、普通の公立学校より多くの大人を配置している。時間とお金をかければできることのお話であった。不登校の子どもたちに寄り添う支援とは何かを考えさせられた。

## 産業厚生委員会

7月28日 神奈川県開成町

### 「庁舎のZEB(ゼロエネルギービル) の実践について」



開成町庁舎は魚沼市新庁舎と同じ令和2年度に供用を開始した新築庁舎で、当初からZEB仕様で設計され、従来の建物に比べ70%ものCO<sub>2</sub>排出削減を実現させていた。魚沼市の今後の脱炭素、環境政策の参考となるものであった。

7月28日 横浜市横山養豚

### 「養豚の臭気対策について」



横山養豚では、近隣の住宅化が進む市街地において臭気や周辺環境対策を行いながら大規模養豚経営を行っている民間事業所である。豚舎内はオゾンによる殺菌消臭が徹底されており、クリーンな環境で健康な肉豚が育てられていた。開放豚舎でありながら、豚舎の周囲においても悪臭はなかった。魚沼市内の畜産悪臭対策にも十分参考になるものであった。

7月29日 東京都府中市

### 「府中市における介護予防の 取組について」



府中市では、学区のように細分化した個々の包括支援センターで完結するような先進的な取組が見られた。一般市民による支援人材を育成する取組や、認知症サポートの実践例を伺った。魚沼市においても、包括支援の拡充や、社会福祉協議会や支援組織の活性化を図る必要性を感じた。



# みなさんからの声を大切に

令和4年度第2回議会報告会  
～市民の声を聞く会～

魚沼市議会では、開かれた議会を目指し、「市民の声を聞く会」（議会報告会）を開催しており、令和4年度2回目となる報告会を11月2日に北部庁舎守門会館で開催しました。

今回の報告会では、9月定例会における各委員会での審議内容や令和3年度決算審査について報告した後、参加者の皆さまと意見交換会を行いました。

いただいたご意見は、各担当委員会で協議し、今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。



## いただいたご意見の一部を紹介します

### 入広瀬小学校について

来年3月で入広瀬小学校が閉校する。その後の活用はどうか。

### 屋内ゲートボール場について

入広瀬・守門のゲートボール協会会員数は150人ほどで、常設の屋内施設を北部地域に欲しい。

### 公共交通について

最近、透析するようになり使うようになった。小出病院に通うも、帰りのバスも電車も丁度いいものがなく、通う回数が多くなると経費もかかる。なんとかならないか。

### 部活動指導員について

教員の働き方改革の一貫もあるが、現実として地域に移行の話が出ているが手を挙げる人がいない。市の取組状況を教えてほしい。

貴重なご意見、ありがとうございます。今後、調査・検討をしていきます。



## 参加者アンケートの結果から

「市民の声を聞く会」の参加者アンケートでいただいたご意見、ご感想を紹介します。

議会報告会が、より多くの声を聴ける場になるよう、ご意見を参考にして、内容を検証していきます。

- 中学校部活動移行に力を貸してください。
- 高齢者のみ世帯が多くなり今まで個人で賄ってきたことが、賄えなくなるのが最大の問題ではないでしょうか。
- 発言するのは、なかなか度胸がいる。もっと勉強しなくてはいけないと反省している。
- 若い世代に向けて発信するために、SNS等を利用してはどうか。
- 堅苦しい雰囲気、女性参加者がいないのが残念です。

いままでいただいたご意見・質問に対する回答はこちらより →



# 市民の声

## 住みたいうおぬまへ

田川 遠藤真央さん

私の出身は宮崎で魚沼に嫁いで9年目になりますが、いまだに雪が降るとワクワクします。

雪が降らない土地から豪雪地帯に cameましたが、雪が降っても安心して運転できる除雪のきれいさは凄いです。除雪隊の方々に感謝です。

そして一番自慢できるのは温かい地域の方々の繋がりです。よそから来た私を優しく迎え地域行事等の参加、同世代の方々からは子どもがいなかったときも「おいで」とよく集まりに誘ってくれました。友人等いなかった私にとってとても心強かったです。

また、子どもができてからは健診等で不安なことを相談すると、市役所の職員が優しくサポートしてくれます。困ったことがあっても魚沼には助けてくれる人がたくさんいること、相談できる環境があること等、もっと魚沼の良さをアピールして魚沼に住んでよかったですと思えるようにして欲しいです。

## 障害者にもやさしい健診を

田戸 櫻井絹江さん

毎年、特定健康診断を申込みますが、集団健診では、私は車椅子生活なので、乳がん・肺がん・子宮がんの検査は受けられません。健診用バスに乗れないからです。以前は、特定健康診断を小出病院で受けることができました。県立病院だからでしょうか。今は、市民のための病院と生まれ変わりました。さらに、手厚くと思い「市長への手紙」にも投稿しましたが、思うような返信ではなかったです。「市長への手紙」は議員の皆さんもご存知なのでしょう。市長個人への要望というより、私は、市政に対する要望です。「市長への手紙」で私たち住民からどんな要望があるのか…議員の皆さんが共有する仕組みは魚沼にあるのでしょうか。多くの障害者の代弁として市政全体の課題にして欲しいです。仕組みがなければ、議会で検討していただきたいです。

## 議会TOPICS

# 「CAFE&SHOP」オープン

12月2日、市議会定例会初日の休憩時間を利用して、小出特別支援学校高等部の生徒さんによる『なごみカフェ』、『クラフトショップSMILE』とかけはしさんから英字新聞で作ったエコパックの販売を本庁舎にオープンしていただきました。

生徒さんたちは、慣れた様子で、「ご注文はお決まりですか?」「お待たせいたしました。」と笑顔で丁寧な対応をしていただき、心温まるひと時を提供していただきました。当日は、作業製品の販売をしていただき、さをり織のコースターやストラップ等、油すいとりー（廃油処理パック）、お皿等が好評でした。

生徒の皆さん、かけはしの皆さん、心温まる素敵な時間をありがとうございました。



## あとがき

いきなりの大雪となった12月、除雪に明け暮れる毎日となるのだろう。雪との戦いが年々きつくなっているように感じる。超高齢化社会となる魚沼市で、今までにない智恵が必要となる。一方で、雪の恵みも計り知れない。雪解け水が大地を潤し、おいしい水となり、どこにも負けないコシヒカリ、ユリ、深雪なす、山菜など様々な食材を生み出してくれている。そして、スキー場やスノーイベント、伝統行事の数々。除雪体制は、県内一だと自負する。先人たちや、今を生きる人々の英知が詰まった魚沼らしい暮らし。これからも、雪国魚沼に誇りを持って歩みたい。

(大平恭児)